1-BIT THEATER SYSTEM

1ビットデジタルシアターシステム

形名 SD-AT1000（エス ディー エー ティー）

取扱説明書

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ご使用の前に、**「安全に正しくお使いいただくために」**を必ずお読みください。
この取扱説明書は、保証書とともに、いつでも見ることができるところに必ず保存してください。

もくじ

1 章 はじめに

2 章 接　続

3 章 準　備

4 章 基　本（すぐに楽しむ）

5 章 応用（さらに進んだ使いかた）

6 章 参考

付属品について

付属品がすべてそろっているか、お確かめください。

リモコン送信機×1

単３乾電池×２
（リモコン送信機用）

取扱説明書（本書）×１
操作早見表×１
保証書×１

FM用アンテナ×１

AM用ループアンテナ×１

スピーカー用すべり止め
シート×１（20個入り）

フロント
スピーカー「左」用
（約5m）

センター
スピーカー用
（約5m）

フロント
スピーカー「右」用
（約5m）

サブウーハー用
（約5m）

サラウンド
スピーカー「左」用
（約15m）

サラウンド
スピーカー「右」用
（約15m）

スピーカーコード×６

おもな特長

高解像度サウンドを実現する
1ビットデジタルアンプを採用！

１秒間に約280万回（約2.8MHz）の高速サンプリングにより、音の分解能力を向上しています。音の伝送／増幅を１ビットデジタル信号で行い、音の立ち上がりや滑らかさを高品位に再現するほか、アナログ信号での処理に比べ音質劣化の少ないクリアーな音質を実現します。

１ビット5.1chデジタルアンプで
高音質＆総合600Wの大迫力を実現！

総合600Wの１ビットデジタルアンプにより、映画や音楽を歯切れの良い臨場感あふれるサウンドを大迫力で楽しめます。

いろいろなサラウンドを楽しめる
各種デコーダーを搭載！

5.1chの高音質再生が可能なDTSやドルビーデジタルに加えて、ビデオテープやCDなどのステレオ音声を5.1chで楽しめるドルビープロロジックII デコーダーを装備しています。

高音質5.1chスピーカーで
リビングが劇場に変身！

小型ながら高性能なスピーカーを採用していますので、高音質で迫力あるサウンドを楽しめます。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

⚠ 警告	人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。
⚠ 注意	けがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味

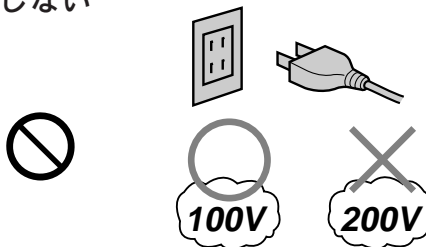
この記号は**気をつける必要がある**ことを表しています。

この記号は**してはいけない**ことを表しています。

この記号は**しなければならない**ことを表しています。

⚠ 警告

電源について

AC100V 以外の電源電圧では使用しない

火災・感電の原因となります。

外国では使用しない

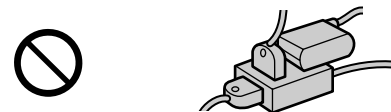
この製品を使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用しないでください。
(This unit cannot be used in foreign countries as designed for Japan only.)

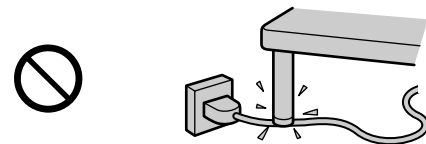
雷について

雷が鳴りだしたら…
安全のため、製品にさわらないでください。

感電の原因となります。

電源コードについて

タコ足配線はしない

発熱により、火災の原因となります。

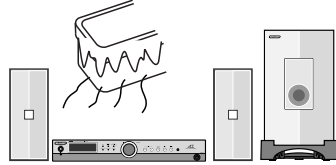
コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したり、加工したり、重い物を乗せたりしない

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

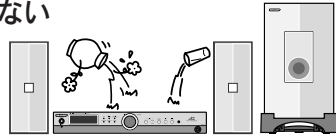
電源コードが傷ついたときは…
販売店に交換をご依頼ください

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠警告

内部に物や水などを入れない

風呂場や雨にあたるところ、湿気の多いところでは使用しない

火災・感電の原因となります。

近くに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ると、火災・感電の原因となります。

開口部（スピーカーダクトなど）から金属類や燃えやすい物などを入れない

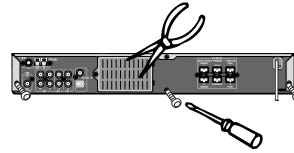
火災・感電・けがの原因となります。
特にお子様のいる家庭ではご注意ください。

内部に水や異物などが入ったときは…

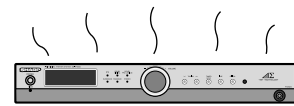
電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

キャビネットについて

キャビネットを開けたり、改造しない

火災・感電・けがの原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

高温部への接触について

使用中は、内部から発生する熱により、本体表面が熱くなります。

長時間触れていると、やけどの原因となることがあります。
特にお子様のいる家庭ではご注意ください。

異常が起きたら

万一、異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常な状態に気がついたときは…

電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください

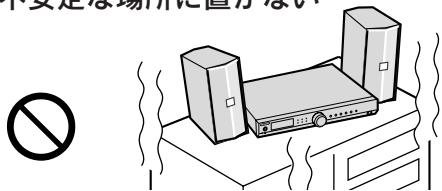
異常な状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

安全に正しくお使いいただくために

安全に正しくお使いいただくために（続き）

⚠注意

置き場所について

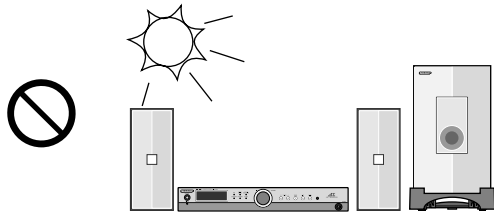
不安定な場所に置かない

落ちたりして、けがや故障の原因となることがあります。

油煙や湯気が当たるような場所に置かない

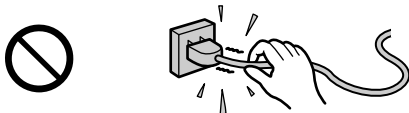
火災・事故の原因となることがあります。

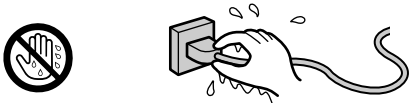
冷気が直接吹きつけるところや、極端に寒い場所に置かない

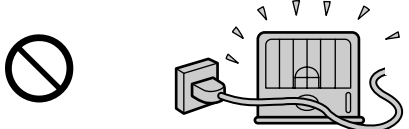
露がつき、漏電・焼損の原因となることがあります。

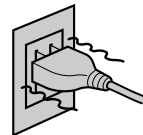
直射日光が長時間あたる場所や、暖房器具の近く、火気の近くには置かない

火災・事故の原因となることがあります。

電源コードの取り扱いについて

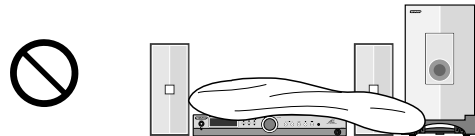
プラグを抜くときはコードを引っぱらない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手でプラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

コードの被覆がとけて、火災・感電の原因となることがあります。

コンセントへの差し込みがぐらついていたり、プラグやコードが熱いときは使用を中止してください

火災・感電の原因となることがあります。

ご使用について

風通しの悪い状態で使用しない
また、布や布団でおおったり、つつんだりしない

熱がこもり、キャビネットが変形し、火災の原因となることがあります。

製品の上に乗らない

踏み台や腰かけのかわりに使わないでください。倒れたりこわれたりして、けがの原因となることがあります。
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。

ヘッドホンで聞くときは

音量の設定に十分気をつける

思わぬ大音量がでて、耳を痛める原因となることがあります。
また、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

移動するときは

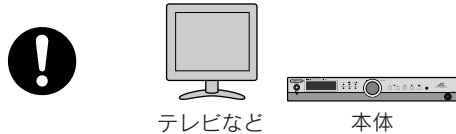
電源を切り、電源コード・接続コードを抜いてください

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

機器の接続について

他の機器を接続するときは、指定のコードをお使いください

テレビなど　本体

接続するときは、必ず電源を切り、他の機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
また、付属のコードや指定以外のコードを使用すると、故障の原因となります。

乾電池の取り扱いについて

乾電池は誤った使いかたをしますと、感電・破裂・発火の原因となることがあります。また、液もれをして機器を腐食させたり、手や衣類などを汚す原因にもなります。次の点に特に注意してください。

- **新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しない**
- **金属小物（かぎ・装飾品ネックレス・コイン等）といっしょにポケットやかばんなどに入れない**
- **水に濡らさない**
- **加熱したり、火の中へは絶対に投げ込まない**
- **分解しない**
- **ハンダ付けしない**
- **端子をショート（短絡）させない**
- **種類のちがう乾電池をまぜて使用しない**
- **充電池（ニカド電池等）は使用しない**

- **乾電池が使えなくなったり、長い間使わないときは、乾電池を全部取り出しておいてください。**

- **乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを、表示どおり正しく入れてください。**

もし、液がもれた場合は、リモコンについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

お手入れのときは

安全のため必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください

感電やけがの原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは

安全のため必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください

壁掛け等で使うときは

スピーカーを壁に掛けたり、スタンドに取り付けたりするときは、必ず指定の壁掛ブラケットやスタンドを使用してください。（☞ P.37）
強度が足りないと落ちたりして、けがや故障の原因となることがあります。

- この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。（☞ P.39）
- お客様または第三者がこの製品の使用誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いません。

各部のなまえ

本体（正面）

参照ページ

❶ **スリープ再生表示**（SLEEP）............ 32
❷ **FMステレオ受信表示**（ꝏ）............ 22
❸ **タイマー再生表示**（◴）............ 31
❹ **FMステレオモード表示**（STEREO）............ 22
❺ **音声信号表示／スピーカー表示** 25

(1) サブウーハー表示
(2) フロントスピーカー「左」表示
(3) フロント「左」信号表示
(4) センター信号表示
(5) センタースピーカー表示
(6) フロント「右」信号表示
(7) フロントスピーカー「右」表示
(8) LFE「低域効果」信号表示
(9) サラウンドスピーカー「左」表示
(10)サラウンド「左」信号表示
(11)サラウンド「モノラル」信号表示
(12)サラウンド「右」信号表示
(13)サラウンドスピーカー「右」表示

❻ **電源ボタン**（POWER）............ 20

参照ページ

❼ **タイマー設定表示**（TIMER）............ 31
❽ **音量調整つまみ**（－／＋VOLUME）............ 20
❾ **チューニングボタン**（∨TUNING∧）............ 22
❿ **チューナー／バンド切換ボタン**（TUNER/BAND）............ 22
⓫ **ライン入力切換ボタン**（LINE）............ 24
⓬ **デジタル入力切換ボタン**（DIGITAL）............ 24
⓭ **リモコン受信部** 19
⓮ **ヘッドホン端子**（PHONES）............ 20
⓯ **サウンドモード表示ランプ** .... 25、27

(1) DTS信号表示ランプ
(2) ドルビーデジタル信号表示ランプ
(3) ドルビープロロジックII表示ランプ
(4) サラウンド表示ランプ
(5) スタンダード表示ランプ
(6) ステレオ表示ランプ

本体（背面）

参照ページ

❶ **FM アンテナ端子**（FM 75 OHMS）.......... 15
❷ **アース端子**（GND）.......... 15
❸ **AM アンテナ端子**（AM）.......... 15
❹ **デジタル音声入力端子（同軸）**（DIGITAL IN 1）.......... 16
❺ **空冷ファン** 19

参照ページ

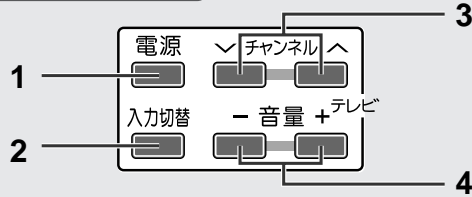
❻ **スピーカー端子**（SPEAKERS）.......... 14
❼ **電源コード** 17
❽ **サブウーハー出力端子**（SUB WOOFER PRE OUT）.......... 33
❾ **音声出力端子**（LINE 1 OUT）.......... 16
❿ **音声入力端子**（LINE 1 IN/LINE 2 IN/LINE 3 IN）.......... 16、17
⓫ **デジタル音声入力端子（光）**（DIGITAL IN 2）.......... 16

各部のなまえ（続き）

リモコン

参照ページ

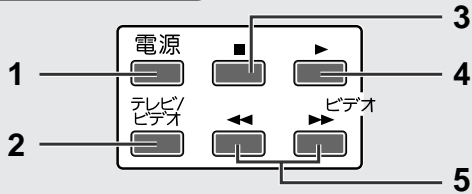
本製品のリモコンで、シャープ製のテレビ・ビデオ・DVD の一部機能を操作することができます。
ただし、シャープ製のテレビ・ビデオ・DVD でも、一部の機種は、操作できないものがあります。

テレビ操作ボタン

1 **電源ボタン**
テレビの電源を「入」、「切」するときに使います。

2 **入力切替ボタン**
テレビの入力を「テレビ」、「ビデオ」などに切り替えるときに使います。

3 **チャンネル切換ボタン**
テレビのチャンネルを合わせるときに使います。

4 **音量調整ボタン**
テレビの音量を調整するときに使います。

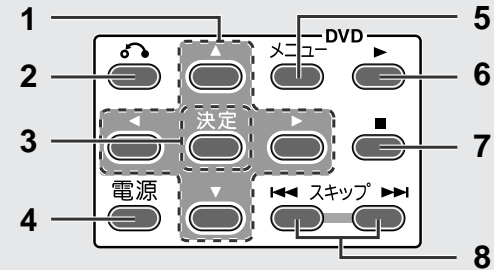
ビデオ操作ボタン

1 **電源ボタン**
ビデオの電源を「入」、「切」するときに使います。

2 **入力切替ボタン**
ビデオの入力を「テレビ」、「ビデオ」などに切り替えるときに使います。

3 **停止ボタン**（■）
ビデオを停止するときに使います。

4 **再生ボタン**（►）
ビデオを再生するときに使います。

5 **巻戻し、早送りボタン**
（◄◄ ►►）
ビデオを巻き戻したり、早送りするときに使います。

DVD 操作ボタン

1 **メニュー選択ボタン**
（◄ ► ▲ ▼）
DVD のメニューを選ぶときに使います。

2 **戻すボタン**（↶）
DVD のメニューを解除するときや、1つ前の画面に戻すときに使います。

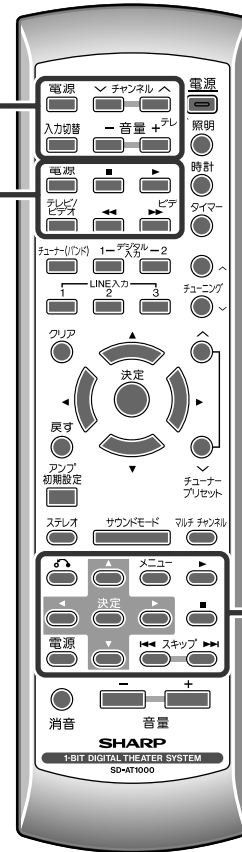
3 **決定ボタン**
DVD のメニューを決定するときに使います。

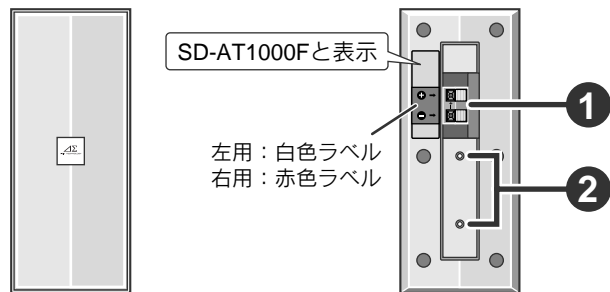
4 **電源ボタン**
DVDの電源を「入」、「切」するときに使います。

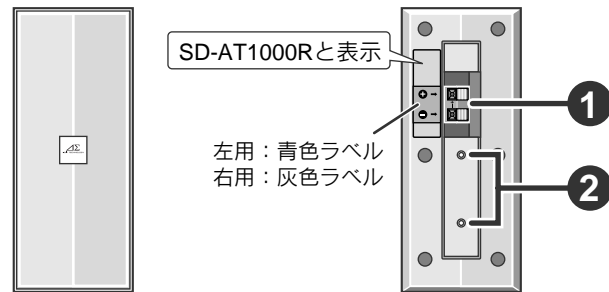
5 **メニューボタン**
DVD のメニューを表示するときに使います。

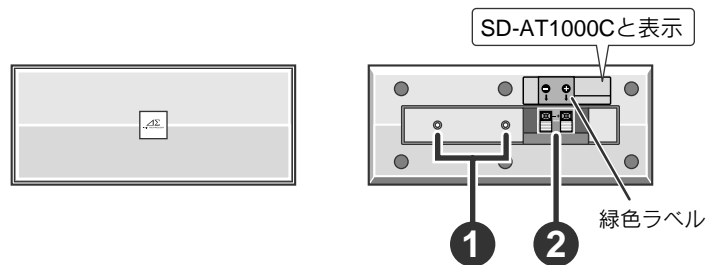
6 **再生ボタン**（►）
DVD を再生するときに使います。

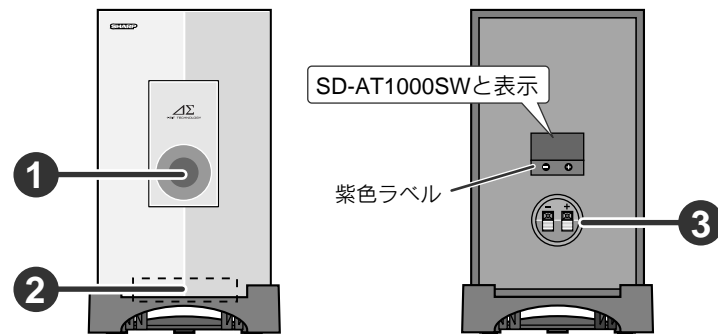
7 **停止ボタン**（■）
DVD を停止するときに使います。

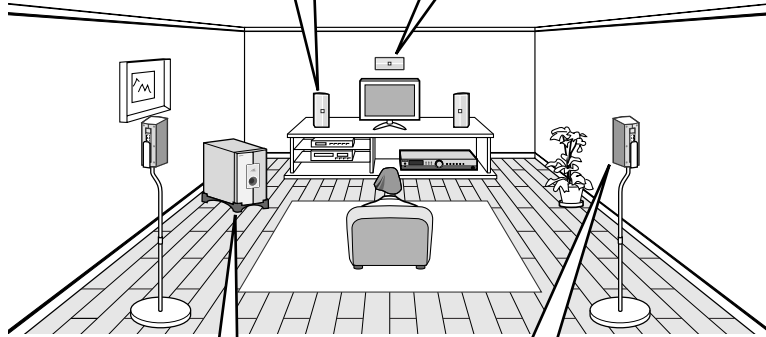
8 **スキップボタン**
（|◄◄ ►►|）
DVD のチャプターを戻したり、送ったりするときに使います。

各部のなまえ（続き）

フロントスピーカー× 2

1. スピーカー端子
2. スタンド、壁掛け用スピーカーブラケット（別売品）取り付け穴

サラウンドスピーカー× 2

1. スピーカー端子
2. スタンド、壁掛け用スピーカーブラケット（別売品）取り付け穴

センタースピーカー× 1

1. 壁掛け用スピーカーブラケット（別売品）取り付け穴
2. スピーカー端子

サブウーハー× 1

1. バスレフダクト
2. ウーハー
3. スピーカー端子

各スピーカーの働きついて

スピーカーの設置方法については、18ページをごらんください。

ご 注 意

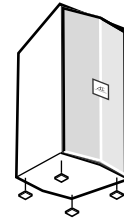
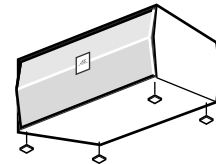
付属のスピーカーは、SD-AT1000専用です。付属のスピーカーを他の機器に接続しないでください。また、他のスピーカーをSD-AT1000に接続しないでください。故障の原因となります。

お知らせ

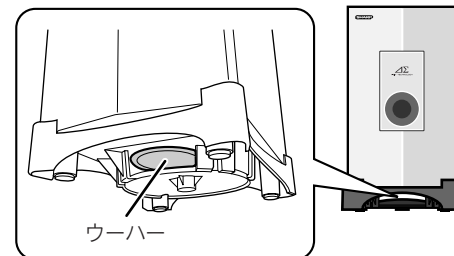
- バスレフダクトの中には、物を入れないでください。
- スピーカーの上に座ったり、立ったりしないでください。けがの原因となることがあります。
- スピーカーネットは取り外しができません。
- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーは防磁設計です。

スピーカー用すべり止めシートについて

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーは、縦や横に設置することができます。
すべり止めシート（付属品）をフロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの底面に貼り付けてください。
振動によるすべりを防ぎます。

縦置きの場合

横置きの場合

すべり止めシートを付属していますので、1つのスピーカーに4つずつお使いください。

■ サブウーハーを持ち運ぶときの注意

持ち運ぶときは、サブウーハーの底面を持ってください。
このとき、下部にあるウーハーに触れないように注意してください。
ウーハーが破損する原因となります。

スピーカーを接続する

本体のスピーカー端子、スピーカーコードのチューブとプラグ、スピーカーのラベルはそれぞれ色分けをしています。
同じ色どうしで本体とスピーカーを接続します。スピーカーの設置方法については、18 ページをごらんください。

スピーカーの接続は、電源コードが抜けていることを確認してから行ってください。

サラウンドスピーカー「左」

センタースピーカー

フロントスピーカー「左」

赤　青　黒

黒　赤　緑

白　赤　黒

青　緑　白

SPEAKERS
RATED SPEAKER IMPEDANCE : 4 OHMS MIN.
SURROUND L　CENTER　FRONT L
R SURROUND　SUBWOOFER　R FRONT

75 OHMS　ANTENNA　FM　GND　AM
PRE OUT　SUB-WOOFER
OUT　IN　IN　IN
LINE 1　LINE 2　LINE 3
DIGITAL IN 1 2

灰　紫　赤

付属のサブウーハーのかわりに、市販のサブウーハーをつなぐことで低音をさらに強調させることができます。
(☞ P.33)

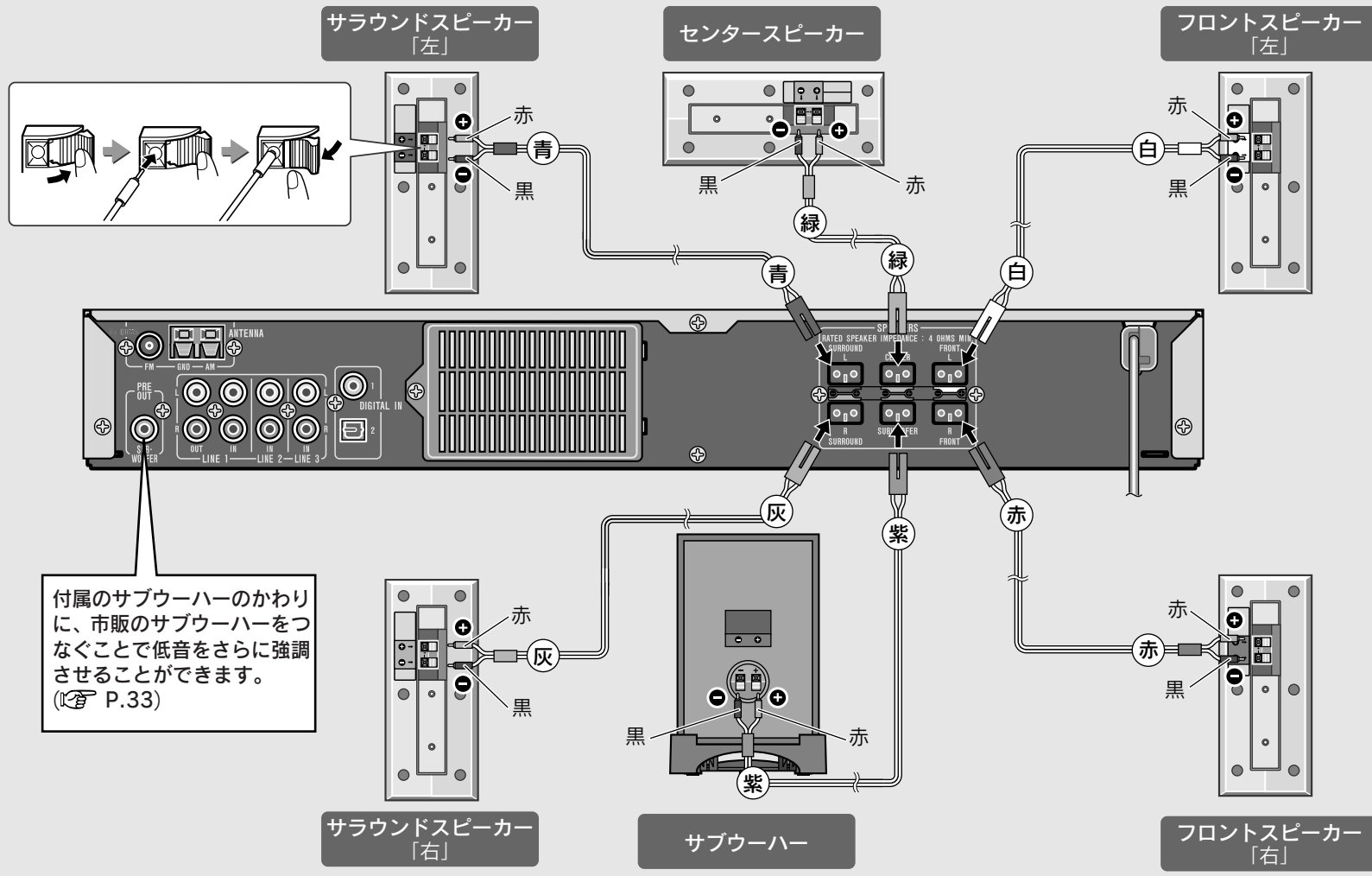
赤　灰　黒

黒　赤　紫

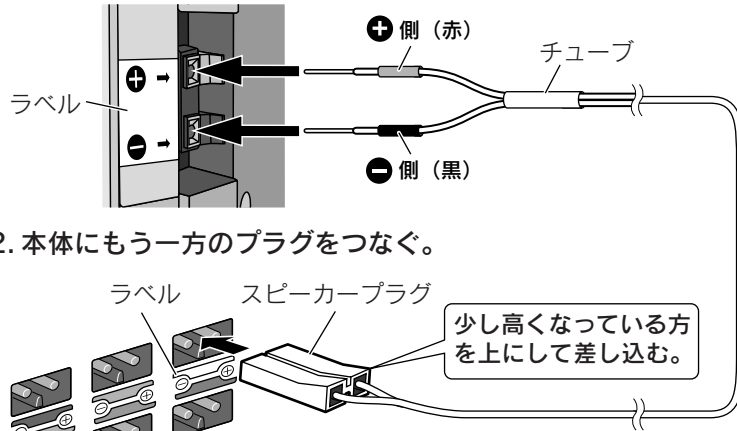
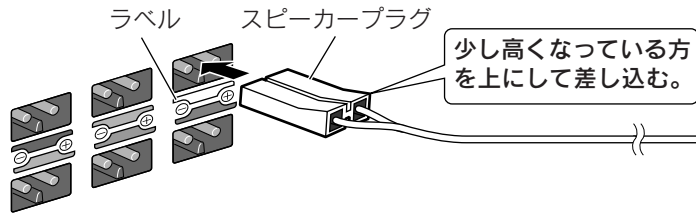
赤　赤　黒

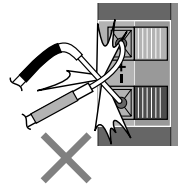
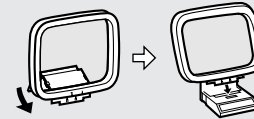
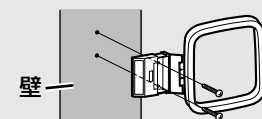
サラウンドスピーカー「右」

サブウーハー

フロントスピーカー「右」

■ スピーカーコードの接続方法

スピーカー側を先に接続し、そのあと本体側を接続してください。
スピーカーコードの ⊕⊖がふれて、ショートすることを防ぎます。

1. スピーカーにスピーカーコードをつなぐ。

2. 本体にもう一方のプラグをつなぐ。

ご 注 意

- **付属のスピーカーは、SD-AT1000 専用です。付属のスピーカーを他の機器に接続しないでください。また、他のスピーカーを SD-AT1000 に接続しないでください。故障の原因となります。**
- スピーカープラグには上下の方向があります。まちがえないように差し込んでください。また、プラグは最後まで確実に差し込んでください。
- スピーカープラグを本体から外すときは、プラグを持って抜いてください。コードを持って抜くと故障の原因となります。
- スピーカーコードの ⊕（プラス）と ⊖（マイナス）、左右をまちがえないように接続してください。
- **スピーカーコードをショートさせないでください。**
電源が入っているときに、誤ってスピーカーコードをショートさせてしまうと、故障の原因となります。

アンテナを接続する

お知らせ

- FM・AM 用アンテナは、本体や電源コード、スピーカーコードから離してください。近づけて使用すると、雑音が入ることがあります。
- AM用ループアンテナの位置を調整しても、雑音が入るときは、黒いコードと白いコードを反対にして接続してみてください。
- 付属のアンテナでラジオ放送がきれいに聞こえないときは、屋外アンテナを設置することもできます。(☞ P.33)

DVD、ビデオ、テレビなどを接続する

■ DVD プレーヤーなど

音声用デジタルコード（市販品）

デジタル音声入力端子（同軸）へ

デジタル音声入力端子（光）へ

光デジタルケーブル（別売品：AD-M3DC)

BSデジタルチューナーなど

テレビ

音声信号

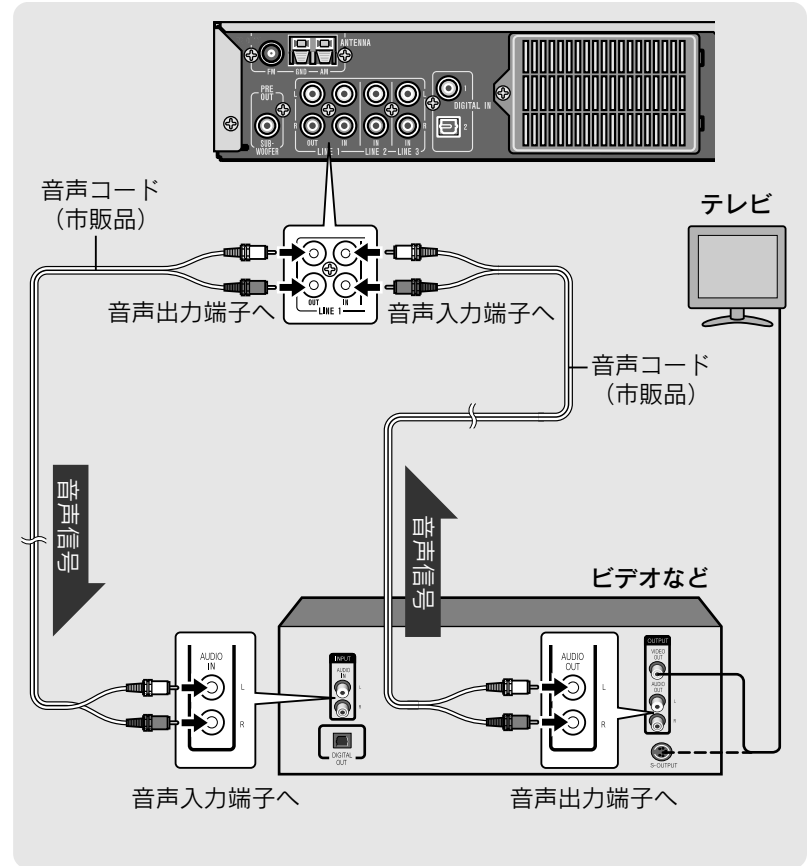
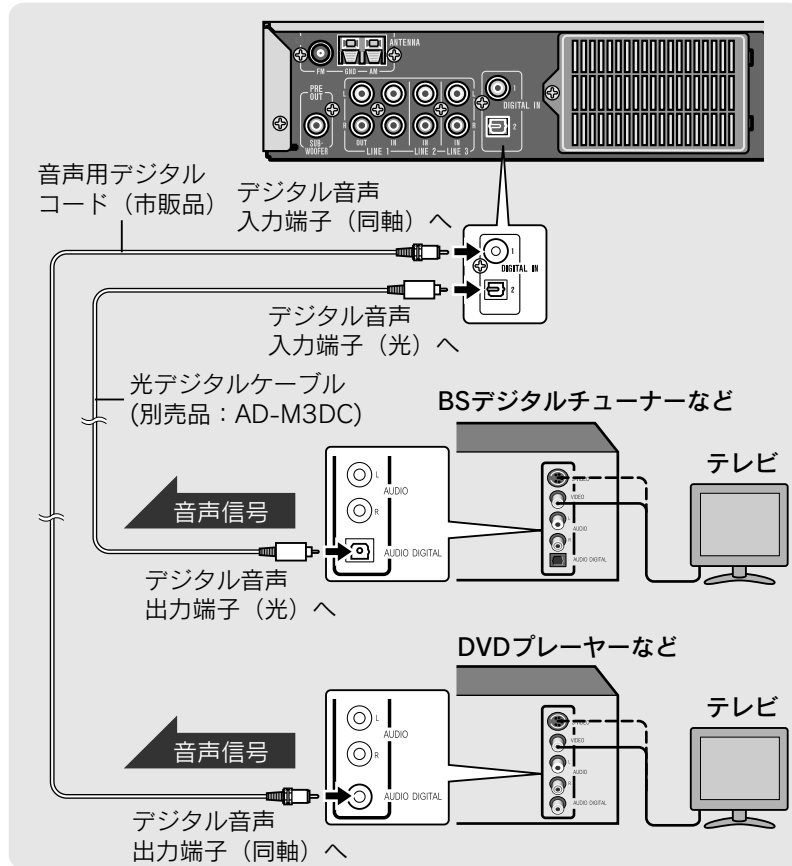
デジタル音声出力端子（光）へ

DVDプレーヤーなど

テレビ

音声信号

デジタル音声出力端子（同軸）へ

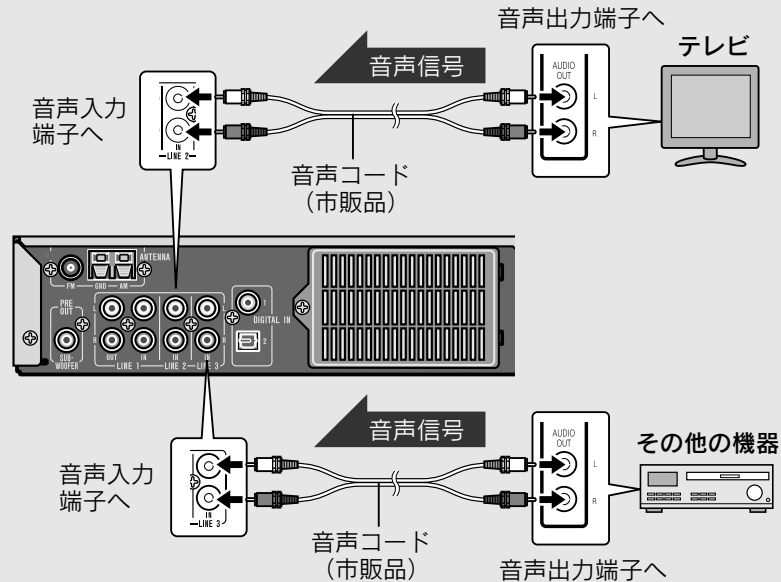
■ ビデオなど

お知らせ

- この製品のデジタル入力端子は、DIGITAL IN 1(同軸タイプ)とDIGITAL IN 2(光タイプ)の２種類あります。
  お手持ちの機器の端子形状に合わせて使い分けをしてください。
- 光デジタルケーブルで接続したときは、BSチューナーのデジタル出力をPCMに設定してください。
  設定の方法については、BSチューナーの取扱説明書をごらんください。

お知らせ

- 本機のLINE 1 OUT端子からは、LINE 2 IN端子とLINE 3 IN端子、内蔵のラジオチューナーからの信号が出力されます。DIGITAL IN 端子とLINE 1 IN端子からの信号は出力されません。
- DVDプレーヤーやビデオ、BSチューナーの映像信号は、テレビに直接つないでください。（接続方法は、それぞれの機器の取扱説明書をごらんください。）

■ テレビやその他の機器

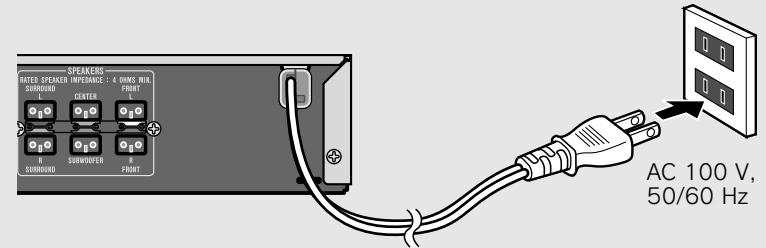
テレビなどの音声がこの製品のスピーカーからサラウンド音声でお楽しみいただけます。

ご 注 意

接続するときは､それぞれの機器の電源を切った状態で行ってください。

お知らせ

- 各プラグは最後までしっかり差し込んでください。
  雑音の原因となります。
- 接続する機器の取扱説明書も合わせてごらんください。

■ 電源コードを接続する

すべての接続が正しくつながれているか確認したあとで､電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

節電のために

旅行などで長時間使用しないときは､電源コードをコンセントから抜いておきましょう。電源を切っていても､わずかですが電力を消費しています。
(長時間電源コードを抜いていると、登録した内容は消え、各種の設定はお買いあげ時の状態に戻ります。)

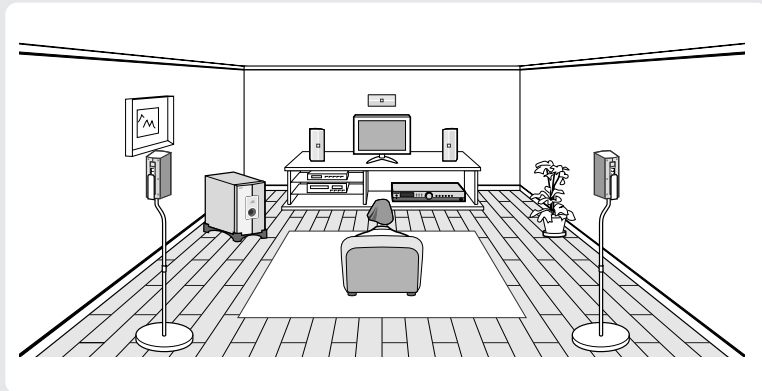
ご 注 意

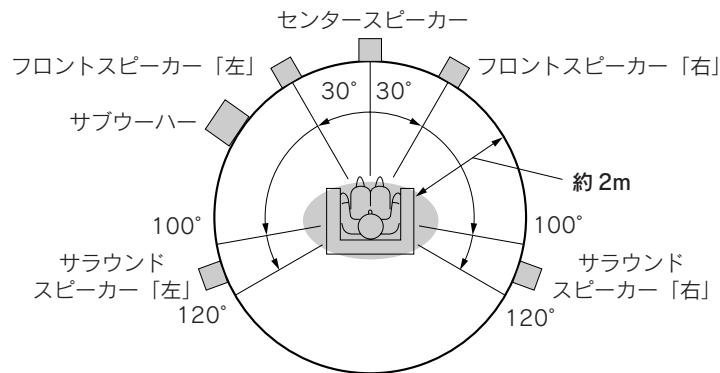
電源コードを抜くときは、電源を切ってからプラグを抜いてください。

本体とスピーカーの設置のしかた

■ スピーカーを配置するとき

サラウンド効果を十分に引き出すために、各スピーカーはお聞きになる位置からなるべく等距離に配置してください。

各スピーカーの設置イメージです。

別売のスピーカースタンドや壁掛け用スピーカーブラケット（☞ P.37）を使用した例です。取り付けかたは、それぞれの取扱説明書をごらんください。

図のような角度に配置することをおすすめします。

各スピーカーを等距離（約 2m）に配置できないときは、「スピーカーディレイやスピーカー音量レベルを調整するとき」をごらんください。（☞ P.28）

防磁スピーカーについて

フロントスピーカーとセンタースピーカー、サブウーハーは防磁対応されていますので、テレビの前や横に置くことができます。ただし、使うテレビによっては、テレビ画面に色ムラが生じることがあります。

テレビ画面に色ムラがおきたら…

いったんテレビの電源を切り、15～30 分後に再び電源を入れてください。

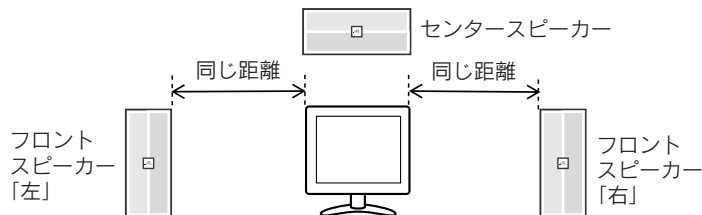
それでも色ムラが残るときは…

スピーカーをさらにテレビから離してください。
（くわしくは、テレビの取扱説明書をごらんください。）

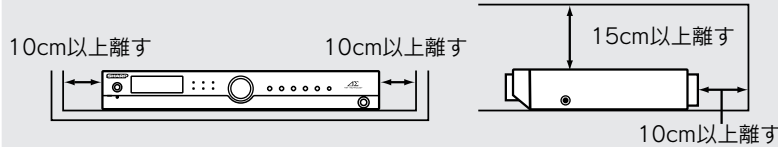
お知らせ

サラウンドスピーカーは、防磁対応ではありません。

お知らせ

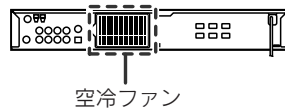
- フロントスピーカーは、テレビを中心として左右に配置してください。
- センタースピーカーは、テレビの近くに置くことをおすすめします。
- サラウンドスピーカーは､耳の高さよりやや高い位置に配置してください。
- サブウーハーからは低音が出ますので､振動しにくいしっかりした床に配置してください。
- サブウーハーの低音は指向性が少ないため､設置位置をあまり限定しません。できるだけ左右フロントスピーカーの近くに置くことをおすすめします。

リモコンの使いかた

■ 本体を設置するとき

本体の天面や背面、側面は熱くなります。
放熱をよくするため、本体の間は次のように離して置いてください。

ご注意

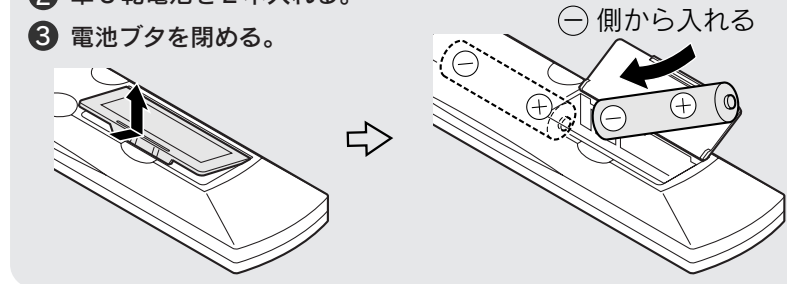
- この製品は、5℃～35℃の場所でお使いください。
- この製品をパソコン・携帯電話などの機器の近くで使用すると、それらの機器やこの製品に雑音が入ることがあります。
  そのときは、できるだけ離してください。

空冷ファンについて

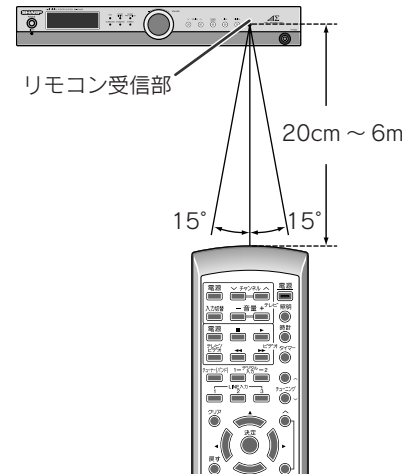
本体の背面には、放熱をよくするために空冷ファンを内蔵しています。
ファンの部分を物でふさがないように注意してください。

高温部への接触について

使用中は、内部から発生する熱により、本体表面が熱くなります。長時間触れていると、やけどの原因となることがあります。特にお子様のいる家庭ではご注意ください。

■ 乾電池を入れる

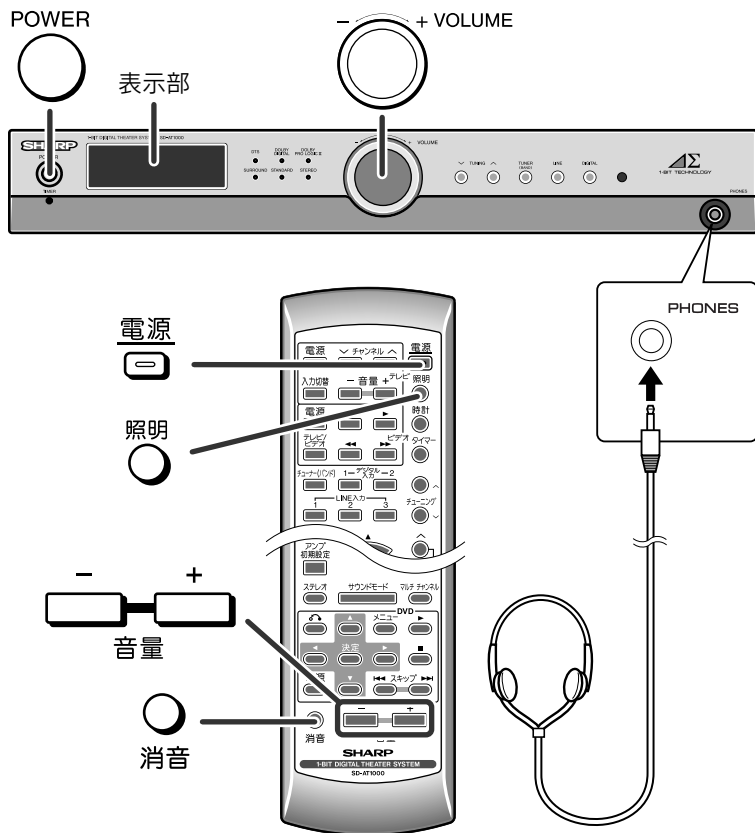
1. **電池ブタを開ける。**
2. **単３乾電池を２本入れる。**
3. **電池ブタを閉める。**

ご注意

- 乾電池の方向に注意して入れてください。
  ⊕、⊖をまちがえると、故障の原因となります。
- リモコンには充電池（ニカド電池など）を使用しないでください。
  充電池では正しく動作しません。

リモコンの使える範囲（目安）

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約１年です。
リモコン受信部に近よらないと動作しなくなったときは、乾電池を交換してください。

ご注意

- リモコン受信部に強い光があたる場所では使用しないでください。
  誤動作の原因となります。
- リモコン受信部や送信部にシールなどを貼ったり、本体とリモコンの間には障害物などを置かないでください。
  リモコンの操作ができなくなることがあります。

基本的な使いかた

■ 電源を入れたり、切るには

[POWER]を押す。もう一度[POWER]を押すと、電源が切れます。

電源が入らないときは、電源コードが正しくつながっているか確認してください。

■ 表示部の明るさを変える（2段階）

リモコンの[照明]を押すと、表示部の明るさを変えることができます。

暗くなる

■ 音量を調整する

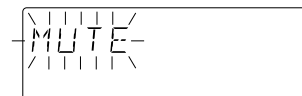
[VOLUME]を右に回すと、音量は大きくなり、左に回すと、音量は小さくなります。

リモコンのときは、[音量 ＋]を押すと、音量は大きくなり、[音量 −]を押すと、音量は小さくなります。

音量0（小）〜音量40（大）

■ 音を消す

リモコンの[消音]を押すと、一時的に音が消えます。

もう一度押すと、もとの音量に戻ります。

■ ヘッドホンを使う

ヘッドホンをつないだり、抜いたりするときは、音量を下げておいてください。

- ヘッドホンをつなぐと、すべてのスピーカーから音は出なくなります。
- インピーダンス16〜50Ω（推奨32Ω）で、ステレオ標準プラグ（直径6.3mm）付のヘッドホンをお使いください。
- プラグは確実に差し込んでください。
- **ヘッドホンから聞こえる音に、サラウンド効果はありません。**
- 他の機器で録音しているときは、ヘッドホンを抜き差ししないでください。音とびの原因となります。

音のエチケット

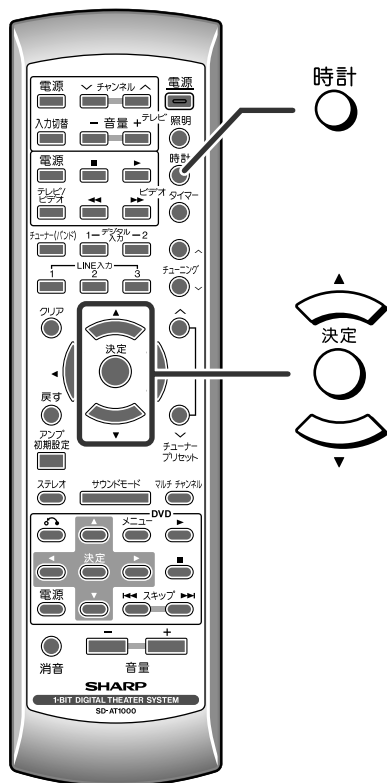
- 楽しい音楽も場所によっては気になるものです。ご近所のご迷惑にならないよう、十分気をつけましょう。
- 夜間にお使いになるときは、ご近所のご迷惑にならないよう、音量を小さくするか、ヘッドホンでお楽しみください。
- ヘッドホンをご使用になるときは、耳をあまり刺激しないよう音量を小さくしてお楽しみください。

時計の合わせかた

時刻を合わせると、時計としてはもちろん、タイマー再生することができます。
電源が「切」のときでも時計を合わせることができます。

（例）午前９時 30 分に合わせるとき

❶ **[時計]を押す。**

ADJUST

❷ ５秒以内に…
［決定］を押す。

AM 0:00

❸ **［▲］または［▼］を押し、“ 時 ”を合わせて［決定］を押す。**

AM 9:00
時

時刻は 12 時間制で表示されます。
午前（AM）/ 午後（PM）の表示に注意してください。
AM 0:00 →夜の 12 時　　PM 0:00 →昼の 12 時

❹ **［▲］または［▼］を押し、“ 分 ”を合わせて［決定］を押す。**

AM 9:30
分

時計が動作し始めます。
約５秒たつと、もとの表示に戻ります。

時刻を確認するには

[時計]を押す。
時刻を約５秒間表示します。

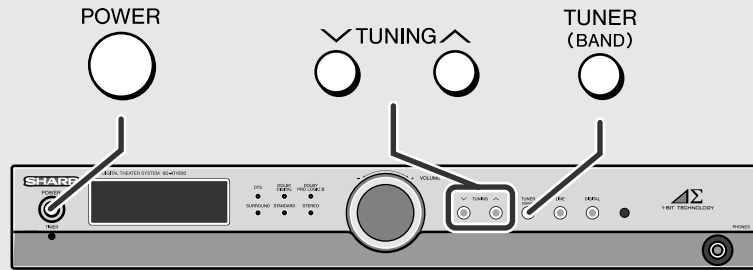
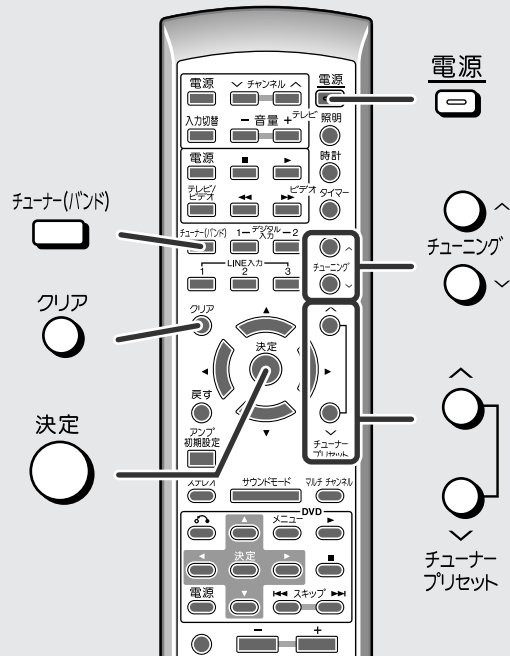
時刻を修正するには

操作❶からやり直してください。

お知らせ

電源コードを抜いたり、停電があったときなどは、時計の設定は消えてしまいます。時刻を確認したときに “ADJUST（アジャスト）” が点滅します。そのときは、時計を合わせ直してください。

ラジオ放送を聞く

電源
チューナー(バンド)
クリア
決定
チューニング
チューナー
プリセット

1 [POWER]を押して、電源を入れる。

2 [TUNER(BAND)]を押して、“FM STEREO”、“FM”、“AM” を選ぶ。

3 [TUNING∨∧] を押して、放送局を選ぶ。

手動同調：ボタンを小きざみに押して､希望する放送局を受信します。

自動同調：ボタンを 0.5 秒以上押し続けて離すと、電波の強い放送局を自動的に受信します。

- 周囲に妨害電波があると、そこで停止することがあります。そのときは、手動同調をお使いください。
- 電波の弱い放送局はスキップされます。
- 途中で止めたいときは、もう一度､[TUNING∨∧]を押してください。

FM ステレオ放送の受信について

FM ステレオモードで、FM ステレオ放送を受信すると、“ꝏ” が点灯します。

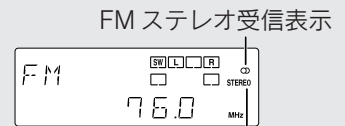
FM ステレオ放送を受信しても電波が弱いと “ꝏ” が点灯しません。
このときは、音が出ませんので､FM モノラルモードに切り換えてください。

FM ステレオ受信表示

FM 76.0 MHz STEREO

FM ステレオモード表示

4 章 基本

ラジオ放送を聞く

■ 放送局を登録するには

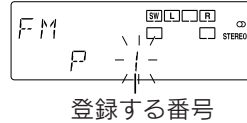
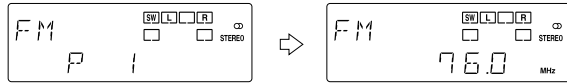
放送局は、AM放送・FM放送を合わせて、40局まで登録できます。

❶ 登録したい放送局を受信する。（☞ P.22操作1～3）

FM放送のときは、ステレオ・モノラルのモードも記憶されます。

❷ [決定]を押して、登録モードにする。

❸ 5秒以内に…
[チューナープリセット∨∧]を押して、登録する番号を選ぶ。

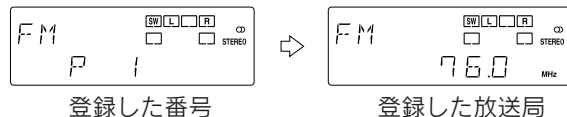
登録する番号

❹ 5秒以内に…
[決定] を押して、放送局を登録する。

❺ 他の放送局を登録するには、操作❶から❹をくり返す。

すでに登録されている番号に登録すると、前の登録内容は消えます。

■ 登録した放送局を呼び出すには

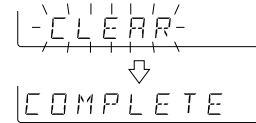
❶ [TUNER(BAND)]を押す。

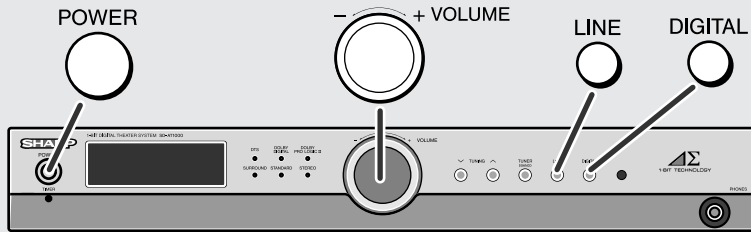
❷ [チューナープリセット∨∧]を押して、登録した番号を選ぶ。

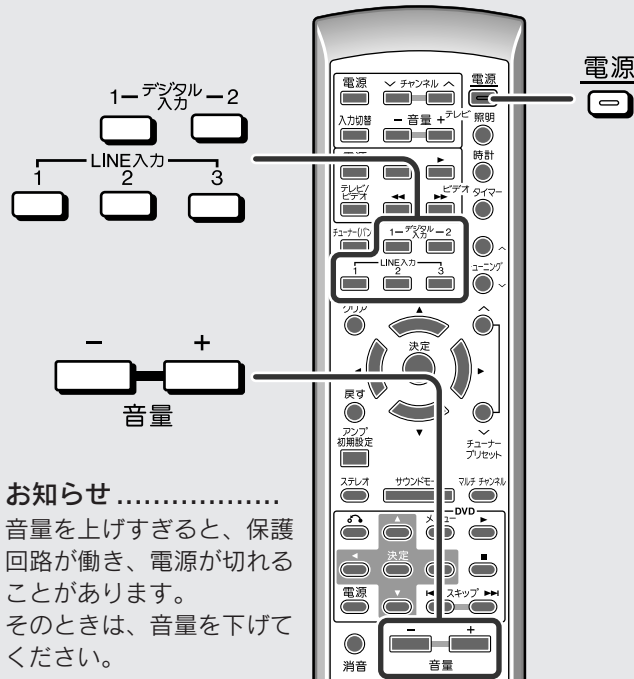
登録した番号　　登録した放送局

■ 登録した放送局をすべて消したいときは

❶ [TUNER(BAND)]を押す。

❷ [クリア] を3秒以上押す。

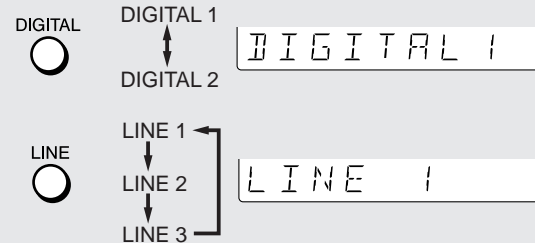
❸ "CLEAR" が点滅中に、[決定] を押す。

お知らせ

- 電源コードを抜いたり、停電になっても、約2～3時間は登録した内容を覚えています。(バックアップ機能)
  登録した放送局が消えたときは、登録し直してください。
- **テレビ音声は次の周波数で受信できます。**
  1チャンネル：FM 95.75MHz
  2チャンネル：FM 101.75MHz
  3チャンネル：FM 107.75MHz
- この製品のテレビ音声受信回路は、FM放送受信回路と兼用しています。このため、地域によっては、テレビの2または3チャンネルの音声を受信したときに、FM放送が混信することがあります。
- テレビ音声多重放送は受信できません。
- テレビ音声やAM放送は、モノラルで受信されますので、ステレオにはなりません。
- テレビ音声を受信中に **"ブー"** という音がしたり、同調が不安定になったときは、アンテナを調整してください。
- 日本国内のFM放送は、76～90MHzが使用されていますが、この製品はテレビ音声を受信するために、108MHzまで受信することができます。

DVD やビデオなどの再生音を聞く

1–デジタル入力–2
LINE入力 1 2 3
– +
音量
電源

お知らせ..................
音量を上げすぎると、保護回路が働き、電源が切れることがあります。
そのときは、音量を下げてください。

1 接続した機器の電源を入れる。

2 [POWER(パワー)]を押して、本機の電源を入れる。

3 [DIGITAL(デジタル)] または [LINE(ライン)] をくり返し押して、入力を選ぶ。

リモコンの[**デジタル入力 1/2**]または[**LINE(ライン) 入力 1/2/3**]を使うと直接、入力を切り換えることができます。

4 接続した機器を再生する。

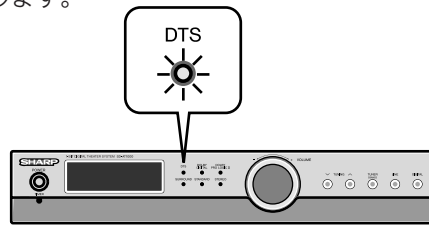
5 [VOLUME(ボリューム)] で音量を調整する。(☞ P.20)

いろいろな音声を楽しむ

DTS (Digital Theater Systems)

上記のマークつきディスクのデジタル入力

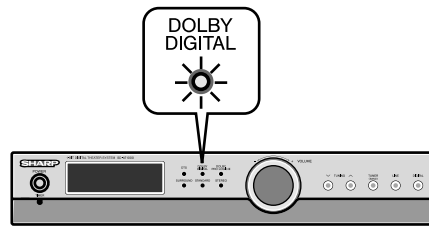
劇場向けデジタル音声システムの1つです。音質を重視しているので、リアルな音響効果が得られ、本格的なホームシアターシステムが楽しめます。

DTS方式で記録されているディスクを再生すると、本機のDTS信号表示ランプが点灯します。

DOLBY DIGITAL

DOLBY DIGITAL

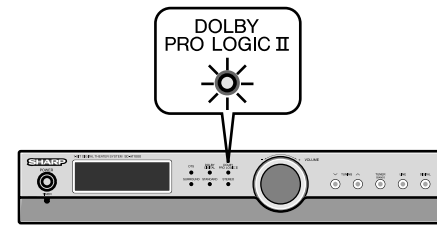
上記のマークつきディスクのデジタル入力

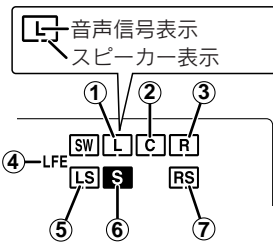
劇場向けデジタル音声システムの１つです。立体的な音響効果が得られ、本格的なホームシアターシステムが楽しめます。

ドルビーデジタル方式で記録されているディスクを再生すると、本機のDOLBY DIGITAL信号表示ランプが点灯します。

DOLBY PRO LOGIC II

ステレオ音声で録音されているディスクやビデオテープなどの入力

ステレオ音声で録音されているディスクやビデオテープ、ドルビーデジタルで記録された2ch音声などを再生すると、ドルビープロロジックII機能により、5.1chのサラウンド音声に変換し、自然な音響効果が得られます。

ドルビープロロジックIIが働くと、本機のDOLBY PRO LOGIC II表示ランプが点灯します。

入力される音声信号に応じて、音声信号表示、スピーカー表示が点灯します。

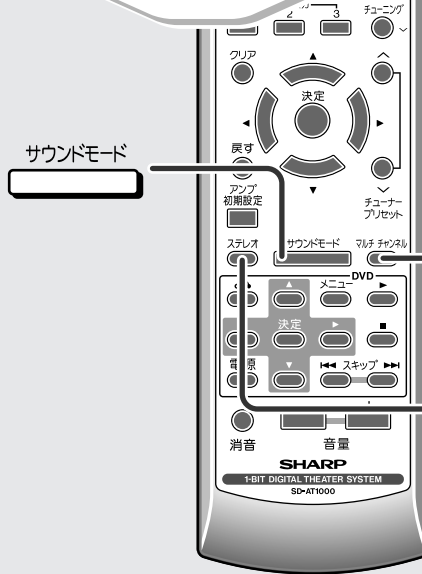
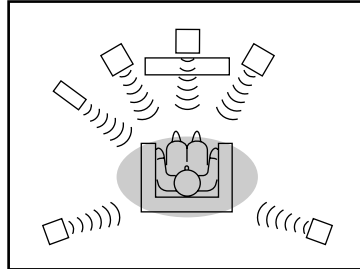
① フロント「左」信号表示
② センター信号表示
③ フロント「右」信号表示
④ LFE（低域効果）信号表示
⑤ サラウンド「左」信号表示
⑥ サラウンド「モノラル」信号表示
⑦ サラウンド「右」信号表示

ご注意

- DVDプレーヤーをLINE IN 1/2/3端子へ接続している場合は、ドルビーデジタル方式やDTS方式のサラウンドを楽しむことはできません。
（音声出力の設定などについては、DVDプレーヤーの取扱説明書をごらんください。）
- ビデオなどの音声を他の機器に録音するときは、音声を「STEREO」にしてください。「STANDARD」や「SURROUND」に設定すると、正しい音声が録音されません。

操作方法は次のページへ

いろいろな音声を楽しむ

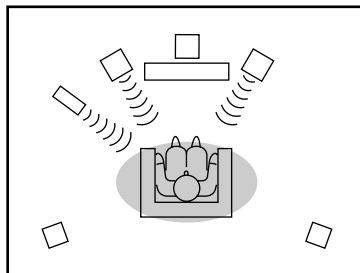
DVDプレーヤーをDIGITAL IN 1/2端子へ接続して音声を聞くと、ドルビーデジタル方式やDTS方式で記録された音声を広がりのある音で楽しむことができます。また、2chのステレオ音声もドルビープロロジックIIで広がりのある音を楽しむことができます。

サウンドモード

マルチチャンネル(5.1ch など)で聞くとき

マルチ チャンネル を押す。

最大 5.1ch のサラウンド音声が再生され、立体的な音響効果が楽しめます。

CDなどの2chステレオ音声もドルビープロロジックII で5.1ch に拡張します。

このモードで、サラウンドの種類を切り換えることができます。

ステレオ(2ch)で聞くとき

ステレオ を押す。

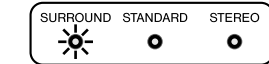
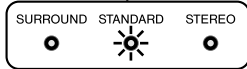
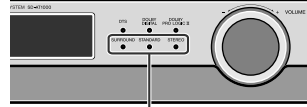
左右のフロントスピーカーとサブウーハーからの音響効果が楽しめます。

このモードで、

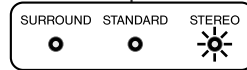
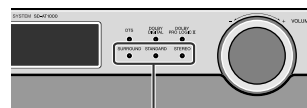
低音の強弱を切り換えることができます。

サウンドモード を押す。

押すたびに切り換わります。

表示	内容
MOVIE	低音のレベルを増やし、より迫力のあるサウンドが楽しめます。
STANDARD	標準の音でサウンドが楽しめます。
MUSIC	歯切れを良くし、メリハリのあるサウンドが楽しめます。
NIGHT	小さい音量でもソフトで迫力のあるサウンドが楽しめます。
SURROUND	音に包み込まれるような音響効果が楽しめます。

DTS やDOLBY DIGITAL の信号が入力されているときは、「SURROUND」は選べません。

サウンドモード を押す。

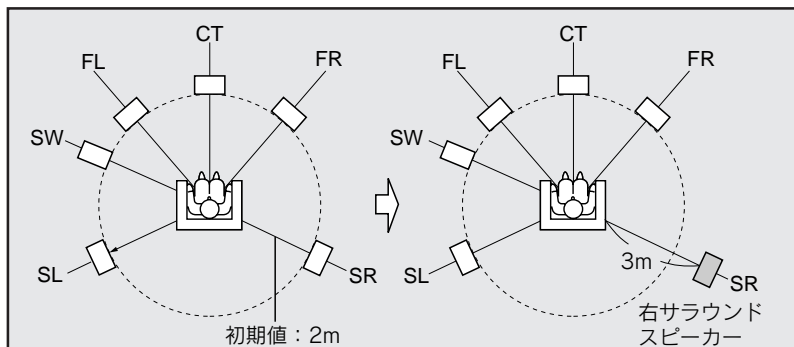
押すたびに切り換わります。

表示	内容
BASS ON	低音を強調します。
BASS OFF	低音の強調は解除されます。

お知らせ

- 「STEREO」や「SURROUND」のときは、DOLBY PRO LOGIC Ⅱ 表示ランプは消灯します。
- ディスクの中には、サンプリング周波数が96kHzで記録されたものがあります。このようなディスクを再生したときは、音声が自動的に「STEREO」に切り換わります。また、再生中は音声の切り換えができません。
- モノラル音声を再生すると、「STANDARD」や「SURROUND」モードでは、センタースピーカーからのみ音が聞こえます。
  「STEREO」モードでは、左右のフロントスピーカーから音が聞こえます。
- 「STANDARD」や「SURROUND」のときに、AM放送を受信すると、表示は「STEREO」に切り換わりますが、AM放送はモノラルで受信しています。

スピーカーディレイやスピーカー音量レベルを

スピーカーを均等に配置できないときは、スピーカーの設定を変更して、均等に配置したときと同じようなサラウンド効果を楽しむことができます。

例えば、右のサラウンドスピーカーが視聴位置から3m離れているときは、次のような方法で設定を変更してください。（SR を調整します。）

1 **「スピーカーディレイの調整」**で右のサラウンドスピーカー（SR）の設定を 3.0m にします。

2 他のスピーカーに比べて少し遠いので、**「スピーカー音量レベルの調整」**で右のサラウンドスピーカー（SR）の音量レベルを少し大きくします。

3 **「テストトーンでの確認」**で各スピーカーの音を確認します。

4 **［戻す］**を２回押して、設定を終了します。

設定方法

ステップ1 スピーカーディレイの調整

スピーカーディレイを調整すると、スピーカーとの距離のちがいによる音の遅延を補正して各スピーカーを等距離に設置できないときでも、等距離に設置したときと同じような効果が得られます。

1 ［アンプ初期設定］を押し、［◀］または［▶］で“SP DELAY（ディレイ）”を選び、［決定］を押す。

2 30 秒以内に…
［◀］または［▶］を押して、調整したいスピーカーを選ぶ。

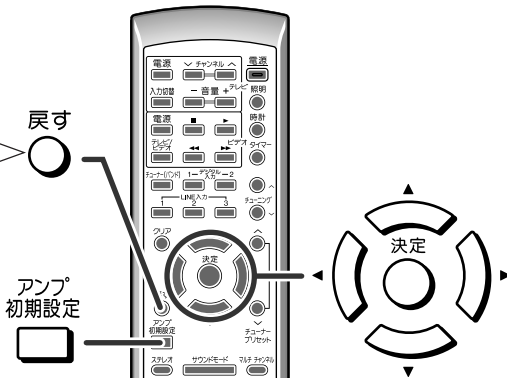
3 30 秒以内に…
［▲］または［▼］で距離を選び、［決定］を押す。

SR 3.0M

- 距離の調整は、0.1m 単位で切り換えることができます。
- 他のスピーカーのディレイを調整するときは、上の操作❷からくり返してください。

スピーカーの種類		調整範囲	初期値
FL	フロントスピーカー「左」	0.1 ～ 9.0m	2m
CT	センタースピーカー	0.1 ～ 9.0m	2m
FR	フロントスピーカー「右」	0.1 ～ 9.0m	2m
SR	サラウンドスピーカー「右」	0.1 ～ 9.0m	2m
SL	サラウンドスピーカー「左」	0.1 ～ 9.0m	2m
SW	サブウーハー	0.1 ～ 9.0m	2m

お知らせ

SUBWOOFER（サブウーハー） PRE（プリ） OUT（アウト） 端子に接続された、市販のサブウーハーもスピーカーディレイを調整することができます。

調整するとき

ステップ2 スピーカー音量レベルの調整

各スピーカーから聞こえる大きさが合っていないときは、同じような音量レベルに調整することができます。

❶ [アンプ初期設定] を押し、[◀] または [▶] で"SP LEVEL(レベル)"を選び、[決定] を押す。

❷ 10秒以内に…
[◀] または [▶] を押して、調整したいスピーカーを選ぶ。

❸ 10秒以内に…
[▲] または [▼] を押して、音量レベルを調整する。

SR + 1dB

- 音量レベルの調整は、1dB単位で切り換えることができます。
- 他のスピーカーの音量レベルを調整するときは、上の操作❷からくり返してください。

スピーカーの種類		調整範囲	初期値
FL	フロントスピーカー「左」	−6dB〜+6dB	0dB
CT	センタースピーカー	−6dB〜+6dB	0dB
FR	フロントスピーカー「右」	−6dB〜+6dB	0dB
SR	サラウンドスピーカー「右」	−6dB〜+6dB	0dB
SL	サラウンドスピーカー「左」	−6dB〜+6dB	0dB
SW	サブウーハー	−10dB〜+10dB	+6dB

お知らせ

- サブウーハーの音が大きすぎて歪むときは、サブウーハーのレベルを下げてください。
- SUBWOOFER(サブウーハー) PRE(プリ) OUT(アウト) 端子に接続された、市販のサブウーハーもスピーカー音量レベルを調整することができます。

ステップ3 テストトーンでの確認

調整したあとは、各スピーカーに一定音（「ザー」と言う音）を出し、音の確認ができます。
（このとき、ステップ2で調整した音量レベルを再調整することができます。）

❶ [アンプ初期設定] を押し、[◀] または [▶] で"TONE(トーン)"を選び、[決定] を押す。

フロントスピーカー「左」から順に、2秒間のテストトーン（「ザー」と言う音）を各スピーカーにくり返し出力します。

❷ もし、レベルが合っていなければ、再度調整する。

テストトーン出力中に…
[◀] または [▶] を押すと、スピーカーを選ぶことができます。
[▲] または [▼] を押すと、スピーカー音量レベルを調整することができます。

ステップ4 スピーカー設定の終了

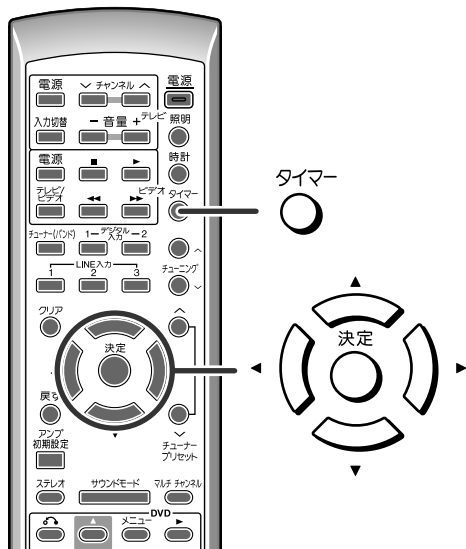
❶ [戻す] を2回押す。

タイマーやスリープを使うとき

タイマーを設定しておくと、朝起きるときなど、目覚ましとして使えて便利です。

タイマーを使う前に

1. 時計を合わせてください。（☞ P.21）
   時計を合わせていないと、タイマー再生は使用できません。
2. 放送局を登録してください。（☞ P.23）

設定方法

お知らせ

この製品のタイマーで、他の機器を操作することはできません。
他の機器の音声を用いて、タイマー再生するときは、接続している機器もタイマー開始の設定をしておく必要があります。

■ タイマーを設定する

❶ 電源を入れて…

［タイマー］を押す。

TIMER STANDBY

"TIMER STANDBY"が表示されないときは、時計を合わせてください。

❷ 10秒以内に…

［◀］または［▶］で "TIMER SET" を選び、［決定］を押す。

TIMER SET

❸ **［▲］または［▼］で開始時刻の "時" を合わせ、［決定］を押す。**

AM 7:00

❹ **［▲］または［▼］で開始時刻の "分" を合わせ、［決定］を押す。**

ON AM 7:30

開始時刻が設定され、"時" が1時間増えて、終了時刻に切り換わります。

❺ **上の操作❸～❹と同じ手順で、終了時刻を設定する。**

❻ **［▲］または［▼］で入力を切り換えて、［決定］を押す。**

DIGITAL 1 ↔ DIGITAL 2 ↔ LINE 1
↕ ↕
TUNER ↔ LINE 3 ↔ LINE 2

- 「TUNER」を選んだときは、［▲］または［▼］で登録した放送局を選び、［決定］を押してください。
- 放送局を登録していないときは "NO P-SET" と表示されます。

❼ **［▲］または［▼］で音量を調整して、［決定］を押す。**

設定内容が順に表示されたあと、電源が切れます。

設定が終わると

タイマーの設定が完了すると…

タイマー再生の待機状態です。

タイマー開始時刻になると…

タイマー再生が始まり、音量が徐々に大きくなります。

タイマーによって動作している状態です。

タイマー終了時刻になると…

電源が自動的に切れます。

電源が切れているときと同じ状態です。

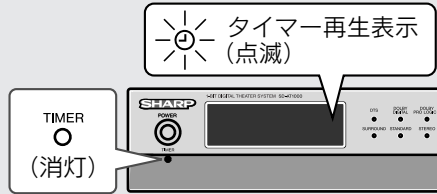
ご 注 意

電源コードを抜いたり、停電になると、時計の設定は消え、タイマーの設定が解除されます。
そのときは、もう一度設定してください。

タイマー設定の内容を確認したいとき！

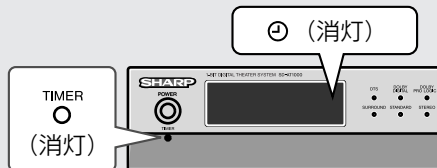
1 タイマー再生の待機状態のときに…
［タイマー］を押す。

TIMER
CANCEL

2 10 秒以内に…
［◀］または［▶］で "TIMER CALL" を選び､[決定]を押す。
設定内容が順に表示されたあと、タイマー再生の待機状態に戻ります。

タイマー再生を解除したいとき！

タイマー再生待機状態のときに、電源を入れると解除されます。
電源を入れずに、次の操作でも解除できます。

1 **［タイマー］を押す。**
"TIMER CANCEL" が表示されます。

2 10 秒以内に… **［決定］を押す。**
タイマー再生は解除されます。（設定した内容は消えません。）

タイマー終了後、再びタイマーを使うとき！

＜同じ内容で使うには＞

タイマーの内容は、一度設定すると覚えています。
内容を変えないときは、次の操作で動作します。

1 電源を入れて… **［タイマー］を押す。**
"TIMER STANDBY" が表示されます。

2 10 秒以内に… **［決定］を押す。**
設定内容が順に表示されたあと、タイマー再生の待機状態になります。

＜内容を変えて使うには＞

電源を入れて…
「タイマーを設定する」の操作❶からやり直してください。（☞ P.30）

5 章
応 用
タイマーやスリープを使うとき

タイマーやスリープを使うとき（続き）

■ スリープを設定する

音声を楽しみながら、設定した時間で電源を切ることができます。

❶ 再生中に…

［タイマー］を押す。

TIMER
STANDBY

❷ 10 秒以内に…

［◀］または［▶］を押して、
“SLEEP SET”を選び
［決定］を押す。

SLEEP
SET

❸ **［▲］または［▼］を押して、**
スリープ時間を選ぶ。

- 時間は 2 時間〜 1 分まで選べます。
- 2時間〜5分までは **“5 分単位”** で、5分〜1分までは **“1 分単位”** で設定できます。

❹ **［決定］を押す。**

“SLEEP”が点灯します。

SLEEP

❺ **スリープ再生終了時刻になると、**
電源が自動的に切れます。

終了時刻の 1 分前になると、音量が徐々に小さくなります。
このとき、音量を変えることはできません。

お知らせ..........

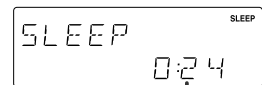
この製品のスリープで他の機器を操作することはできません。
他の機器の音声を用いて、スリープ再生するときは、接続している機器もスリープの設定をしておく必要があります。

スリープ中に残り時間を確認するには

1 “SLEEP”の点灯中に…　**［タイマー］を押す。**

2 10 秒以内に…
［◀］または［▶］で“SLEEP”を選ぶ。

スリープ再生残り時間

- 約 10 秒後にもとの表示に戻ります。
- スリープ残り時間が表示されているときに**［決定］**を押すと、時間を変更することができます。（スリープを設定する：操作❸〜❹）

スリープ再生を解除するには

“SLEEP”の点灯中に電源を切ると、スリープ再生は解除されます。
電源を切らずに次の操作でも解除できます。

1 **［タイマー］を押す。**

2 10 秒以内に…
［◀］または［▶］で“SLEEP OFF”を選び、［決定］を押す。

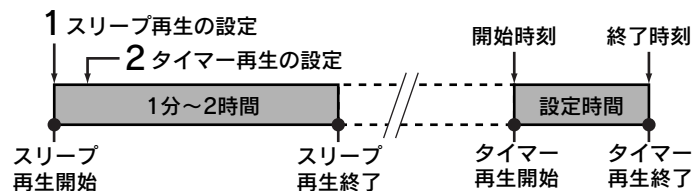
■ スリープとタイマーを組み合わせて使う

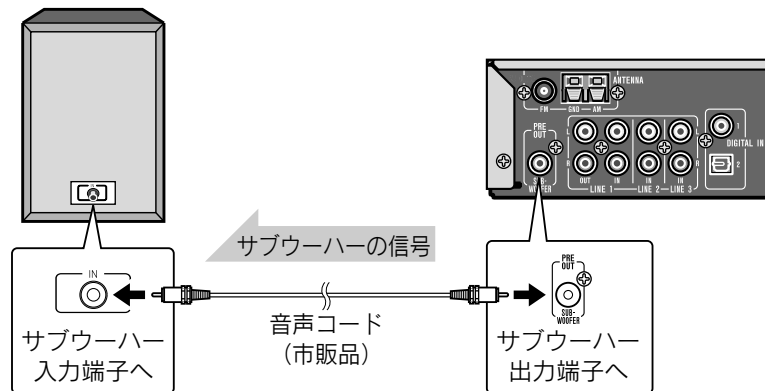
たとえば、ラジオを聞きながらおやすみになり、次の日の朝、ラジオの音楽で目覚ましをすることができます。

1 **スリープ設定をする。**（スリープを設定する：操作❶〜❹）
スリープ動作が開始されます。

2 **タイマー再生を設定する。**
（タイマーを設定する ☞ P.30：操作❶〜❼）

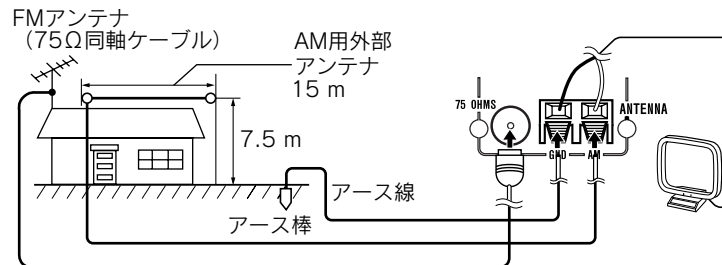
5 章
応 用

タイマーやスリープを使うとき

市販のサブウーハーを使うとき

付属のサブウーハーのかわりに、市販のアンプ内蔵サブウーハーをつなぐことで、低音をさらに強調させることができます。

お知らせ

- アンプを内蔵していないスピーカーを接続しても音は出ません。
- 付属のサブウーハーを使用しないときは、本体からスピーカーコードを抜いておいてください。
- SUBWOOFER（サブウーハー） PRE（プリ） OUT（アウト） 端子に接続された市販のサブウーハーも、スピーカーディレイやスピーカー音量レベルの設定を変更することができます。(☞ P.28, 29)

屋外アンテナを使うとき

付属のアンテナでラジオ放送がきれいに聞こえないときは、屋外アンテナを設置することができます。

- アンテナ工事には、技術と経験が必要です。また、高い所での作業は危険です。設置するときは、販売店に相談してください。
- AM用外部アンテナを接続するときは、AM用ループアンテナを接続したままにしておいてください。

屋外アンテナの設置場所について

- 放送局の送信アンテナがある方向に立てます。
- ビルや山のかげなど、障害物がある所では、最もよく受信できる所に立てて方向も変えてみます。
- 自動車や電車の雑音が入らないよう、道路や線路から離れた所、またはそれらが見えない所に立てるようにしてください。
- 送電線の下には立てないでください。
  送電線にアンテナが触れると大変危険です。
- 落雷のおそれがありますので、あまり高い所には立てないでください。

アース棒について

アースの接続（接地）は、万一の感電事故を防止することができます。
アース棒を地中に埋めるか、または鉄製の水道管につないでください。
危険ですので、ガス管にはつながないでください。

“故障かな？”と思ったら

次のようなときは故障ではないことがありますので、修理を依頼される前に、もう一度お調べください。それでも具合の悪いときは、38ページの「保証とアフターサービス」をごらんのうえ修理を依頼してください。

■ 共通

症状	確認事項	参照ページ
スピーカーから音が出ない	➡ 音量が「0」になっていませんか。 ➡ ヘッドホンをつないでいませんか。 ➡ スピーカーは正しく接続されていますか。	P.20 P.20 P.15
スピーカーの音にばらつきがある	➡ スピーカーコードの ⊕、⊖ をまちがえていませんか。 ➡ 各スピーカーをお聞きの位置から等距離に設置していますか。 ➡ スピーカー音量レベルが合っていますか。	P.15 P.18 P.29
再生中に雑音が出る	➡ パソコン・携帯電話などの機器が本機の近くにある場合は、離してください。	——
ボタンを押しているうちに正常な動作をしなくなった	➡ 一度、電源を切り、操作をやり直してください。それでも動作しないときは、リセット操作をしてください。	P.35
タイマー再生が動作しない	➡ 電源コードを抜いたり、停電がありませんでしたか。 時計とタイマーを合わせ直してください。	P.21、30
表示部が暗い	➡ 表示部を暗く設定していませんか。	P.20
電源が入らない	➡ 電源プラグがコンセントからはずれていませんか。 ➡ 保護回路が働いていることがあります。電源プラグをコンセントから抜き、5分以上たってから再び差し込んでください。	P.17 P.35

■ チューナーの操作

症状	確認事項	参照ページ
放送に“シー”、“ザー”という連続音が入る	➡ テレビやコンピュータ、ワープロなどの近くでラジオ放送を受信すると雑音が入ります。このようなときは、雑音の発生しやすい所から離してみてください。 ➡ アンテナの方向が悪くありませんか。	—— P.15
放送がよく受信できない 雑音も多い	➡ アンテナ線の近くに電源コードがある場合は離してください。 ➡ 受信状態が改善されない場合は、屋外アンテナを設置する方法もあります。	—— P.33
登録した放送局を呼び出すことができない	➡ 電源コードを抜いたり、停電がありませんでしたか。登録し直してください。 ➡ リセット操作をしませんでしたか。登録し直してください。	P.23 P.35

■ リモコンの操作

症状	確認事項	参照ページ
リモコンで操作できない または、正しい動作をしない	➡ 乾電池の ⊕、⊖ の向きが逆になっていませんか。 ➡ 乾電池が消耗していませんか。 ➡ リモコンの送信部を本機のリモコン受信部に正しく向けていますか。 ➡ リモコン受信部との距離が遠すぎませんか。または、近すぎませんか。 ➡ 本機の前に障害物はありませんか。 ➡ リモコン受信部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光など）があたっていませんか。 ➡ 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか。	P.19 —— P.19 P.19 P.19 P.19 ——
リモコンで電源が入らない	➡ 電源コードはつながっていますか。 ➡ 乾電池は入っていますか。	P.17 P.19

■ エラーメッセージについて

操作を誤ったときなどに、本体表示部に次のような表示がでます。

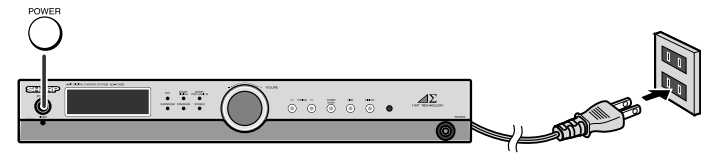
本体表示	エラーの内容
DSP NG	・サラウンド回路の動作不良。 近くに雑音を発生するものがあれば本体から離したり、電源プラグの差し込み位置を変えてみる。(※)
FAN LOCK	・本体背面の空冷ファンに異物がはさまり回らない。 電源を切って、空冷ファン周辺の異物を取り除いてみる。
NOSIGNAL	・デジタル音声入力端子の接続不良。 ・電源を切って、コードが正しく接続されているか確かめてみる。 ・規格外の信号で認識することができない。

(※) 電源プラグを差し込み直したり、電源を入れ直しても、同じ表示がでるときは、38ページの「保証とアフターサービス」をごらんのうえ、修理を依頼してください。

異常が起きたら

この製品を使用中に、強い外来ノイズ(衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など)を受けたときや誤った操作をしたときなどに、正しく表示しなくなったり、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。
このようなときは、次のようにリセット操作をしてください。

<リセット操作>

1 **電源コードをコンセントから抜きます。**
2 **[POWER(パワー)]を押したまま、電源コードを差し込みます。**
このとき、電源は入りません。

3 **もう一度、[POWER(パワー)]を押し、電源を入れてください。**

ご 注 意 ....

リセット操作をすると、登録した内容は消え、各種の設定はお買いあげ時の状態に戻ります。

<アンプの保護回路が働いたとき>

音量を上げすぎると、保護回路が働くようになっています。
保護回路が働くと、電源が自動的に切れます。
一度電源コードを抜いて、5分以上たってから再び差し込み、音量を少し下げてください。

仕様について

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

本体

実用最大出力	総合 600W フロントスピーカー： 100W＋100W (JEITA) センタースピーカー： 100W (JEITA) サラウンドスピーカー： 100W＋100W (JEITA) サブウーハー： 100W (JEITA)
A/D ノイズシェーピング	７次ΔΣ(デルタシグマ変調)
チューナー受信周波数	FM： 76.0～108.0 MHz (TV 音声 1～3CH) AM： 522～1,629 kHz
音声入力端子	同軸デジタル入力（DIGITAL1）：ピンジャック× 1 光デジタル入力（DIGITAL2）：角型× 1 アナログ入力（LINE1）：ピンジャック（L/R）× 1 アナログ入力（LINE2）：ピンジャック（L/R）× 1 アナログ入力（LINE3）：ピンジャック（L/R）× 1
音声出力端子	スピーカー出力 (フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハー)：4Ω ヘッドホン出力：16Ω～50Ω（推奨 32Ω） サブウーハー出力：10kΩ アナログ出力：ピンジャック（L/R）× 1
電源	100V AC、50/60Hz
消費電力	120W（待機時消費電力 0.35W）
最大外形寸法	430mm (幅) ×67mm (高さ) ×324mm (奥行) (JEITA)
質量	約 4kg

リモコン

電源	DC3V（付属単３乾電池× 2 個）

フロントスピーカー

形式	フルレンジスピーカー［防磁設計(JEITA)］ 8cm スピーカー× 2
最大入力	100W
インピーダンス	4Ω
最大外形寸法	105mm (幅) ×251mm (高さ) ×125mm (奥行) (JEITA)
質量	約 1.5kg

センタースピーカー

形式	フルレンジスピーカー［防磁設計(JEITA)］ 8cm スピーカー× 2
最大入力	100W
インピーダンス	4Ω
最大外形寸法	251mm (幅) ×105mm (高さ) ×125mm (奥行) (JEITA)
質量	約 1.5kg

サラウンドスピーカー

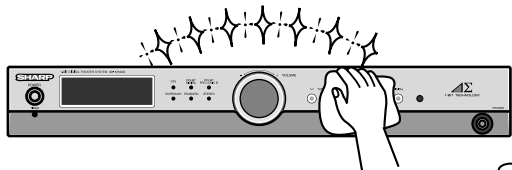
形式	フルレンジスピーカー 8cm スピーカー× 1
最大入力	100W
インピーダンス	4Ω
最大外形寸法	105mm (幅) ×251mm (高さ) ×125mm (奥行) (JEITA)
質量	約 0.9kg

サブウーハー

形式	16cm ウーハー［防磁設計(JEITA)］
最大入力	100W
インピーダンス	4Ω
最大外形寸法	240mm (幅) ×408mm (高さ) ×306mm (奥行) (JEITA)
質量	約 6.3kg

お手入れについて

■ 本体のお手入れ

やわらかい布で軽くふき取ってください。
汚れがひどいときは、水にひたした布をよくしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。

ご 注 意..
ベンジン、シンナーなどは使わないでください。
変質したり、塗料がはげることがあります。

別売品について

この製品を正しく動作させるために、別売品は指定のものをお使いください。
スピーカーの取り付けかたについては、スタンドやブラケットの取扱説明書をごらんください。

フロアー型スピーカースタンド	壁掛け用スピーカーブラケット	光デジタルケーブル
形名：AD-AT11ST	形名：AD-AT10SA	形名：AD-M3DC

別売品の形状はイラストと異なることがあります。

さくいん

1-BIT DIGITAL THEATER SYSTEM SD-AT1000

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書（別添）

- 保証書は「お買いあげ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。
  保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。
- **保証期間**
  お買いあげの日から１年間です。
  保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

補修用性能部品の保有期間

- 当社は、この1ビットデジタルシアターシステムの補修用性能部品を製造打切後、８年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

- 修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口（39ページ）にお問い合わせください。

愛情点検	長年ご使用の機器の点検を！
このような症状はありませんか？	● 電源コードやプラグが異常に熱い ● コゲくさい臭いがする ● 電源コードに深いキズや変形がある ● その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は、販売店にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

- 「“故障かな？”と思ったら」（34、35ページ）を調べてください。それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず 電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

■ご連絡していただきたい内容

品名	：1ビットデジタルシアターシステム
形名	：SD-AT1000
お買いあげ日	（ 年 月 日）
故障の状況	（できるだけ具体的に）
ご住所	（付近の目印も合わせてお知らせください。）
お名前	
電話番号	
ご訪問希望日	

■便利メモ

お客様へ…
お買いあげ日・販売店名を記入されると便利です。

お買いあげ日	販売店名
年　月　日	電　話（　　　　）　　－

■保証期間中

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できるときには、ご希望により有料で修理させていただきます。

■修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

お客様ご相談窓口のご案内

修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買いあげの販売店へご連絡ください。

転居や贈答品などで、保証書記載の販売店にご相談できない場合は、下記窓口にご相談ください。

- **製品の故障や部品のご購入に関するご相談は・・・ 修理相談センター へ**
- **製品のお取扱い方法、その他ご不明な点は・・・・・ お客様相談センター へ**

お客様相談センター

■ 受付時間：＊月曜～土曜：午前9時～午後6時
＊日曜・祝日：午前10時～午後5時（年末年始を除く）

東日本相談室	TEL **043-297-4649**	FAX **043-299-8280**
	〒261-8520　千葉県千葉市美浜区中瀬1-9-2	
西日本相談室	TEL **06-6621-4649**	FAX **06-6792-5993**
	〒581-8585　大阪府八尾市北亀井町3-1-72	

● 所在地・電話番号などについては変更になることがありますので、その節はご容赦願います。

修理相談センター

● 修理相談センター（沖縄・奄美地区を除く）

■ 受付時間：＊月曜～土曜：午前9時～午後6時　＊日曜・祝日：午前10時～午後5時（年末年始を除く）

0570-02-4649

当ダイヤルは、全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。
呼出音の前に、ＮＴＴより通話料金の目安をお知らせ致します。
（注）携帯電話・ＰＨＳからは、下記電話におかけください。

		<東日本地区>	<西日本地区>
○ 携帯電話／ＰＨＳでのご利用は・・・	（一般電話）	043-299-3863	06-6792-5511
○ ＦＡＸを送信される場合は・・・・・・・	（Ｆ Ａ Ｘ）	043-299-3865	06-6792-3221

○ 沖縄・奄美地区については、下表の「那覇サービスセンター」にご連絡ください。

◎ **持込修理および部品購入のご相談**は、上記「修理相談センター」のほか、下記地区別窓口にても承っております。

■ 受付時間：＊月曜～土曜：午前9時～午後5時30分（祝日など弊社休日を除く）
〔但し、沖縄・奄美地区〕は・・・・＊月曜～金曜：午前9時～午後5時30分（祝日など弊社休日を除く）

担当地域	拠点名	電話番号	郵便番号	所在地
北海道地区	札幌サービスセンター	011-641-4685	〒063-0801	札幌市西区二十四軒1条7-3-17
東北地区	仙台サービスセンター	022-288-9142	〒984-0002	仙台市若林区卸町東3-1-27
関東地区	さいたまサービスセンター	048-666-7987	〒330-0038	さいたま市宮原町2-107-2
	宇都宮サービスセンター	028-637-1179	〒320-0833	宇都宮市不動前4-2-41
	東京テクニカルセンター	03-5692-7765	〒114-0013	東京都北区東田端2-13-17
	多摩サービスセンター	042-586-6059	〒191-0003	日野市日野台5-5-4
	千葉サービスセンター	047-368-4766	〒270-2231	松戸市稔台295-1
	横浜サービスセンター	045-753-4647	〒235-0036	横浜市磯子区中原1-2-23
東海地区	静岡サービスセンター	0543-44-5781	〒424-0067	清水市鳥坂1170
	名古屋サービスセンター	052-332-2623	〒454-8721	名古屋市中川区山王3-5-5
北陸地区	金沢サービスセンター	076-249-2434	〒921-8801	石川郡野々市町御経塚4-103
近畿地区	京都サービスセンター	075-672-2378	〒601-8102	京都市南区上鳥羽菅田町48
	大阪テクニカルセンター	06-6794-5611	〒547-8510	大阪市平野区加美南3-7-19
	神戸サービスセンター	078-453-4651	〒658-0082	神戸市東灘区魚崎北町1-6-18
中国地区	広島サービスセンター	082-874-8149	〒731-0113	広島市安佐南区西原2-13-4
四国地区	高松サービスセンター	087-823-4901	〒760-0065	高松市朝日町6-2-8
九州地区	福岡サービスセンター	092-572-4652	〒816-0081	福岡市博多区井相田2-12-1
沖縄・奄美地区	那覇サービスセンター	098-861-0866	〒900-0002	那覇市曙2-10-1

● 所在地・電話番号などについては変更になることがありますので、その節はご容赦願います。